

「野の花の丘」 便り (7月上旬)

花が咲き始めました

7月になり夏も本番です。いよいよ花の季節がやって来ました。黄色のエゾカワラマツバ、白色のオカトラノオ、赤色のヒヨドリバナ、紫色のエゾクガイソウ、ピンク色のヤナギラン、白色のヨツバヒヨドリなどが、いどりゆたかに花を咲かしはじめています。

4月の末の芽吹きから2ヶ月あまりで花の季節になりました。特にBブロック、Cブロックがにぎやかになっていきます。どうぞ奥の方にも入って花をみてやって下さい。

部分的ではありますが、クサレダマに何だかわからない白い小さな虫がついて、葉っぱが食べられています。厄介者は雑草だけではないようです。

エゾカワラマツバ



オカトラノオ



ヒヨドリバナ



エゾクガイソウ



ヤナギラン



「野の花の丘」 便り (7月中旬)

今年2回目の作業を行いました

7月になり暑い日が続き、花が次から次へと咲き始めています。今ピンク色のヤナギラン、紫色のエゾクガイソウ、白色のオカトラノオが競い合って咲いています。ほかの花もあまり目立たないのですが、負けじとつぼみをつけ始めています。

昨年新たに植えたコバギボウシも花芽を出し、ヤッタと喜んでいきます。この暑い中よくバテもせず次から次へと花を咲かせるものだと、植物の強さに感心します。また雑草も盛んに生長しています。

7月8日に第2回目の作業を行いました。カンカン照りのなかでしたが、厄介者の雑草退治に汗を流しました。散髪した後のように少しさっぱりしました。

咲き始めたコバギボウシ



皆さんお疲れ様



少しさっぱり



「野の花の丘」 便り (7月下旬)

秋の気配？

7月上旬から中旬にかけて咲き誇っていた、エゾクガイソウ、ヤナギラン、オカトラノオが盛りを過ぎようとしています。替わってエゾミンソハギ、クサレダマ（腐れ玉ではなくて草連玉）が咲きだしました。

またキクの仲間であるヤマハハコ、エゾノコンギク、ノコギリソウ、ヒヨドリバナや、秋の七草のひとつであるオミナエシも咲き始めました。もともとここにはなかったナデシコ（これも秋の七草のひとつ）もどこか来たのか、わずかではありますが花を咲かせています。

これからまだまだ暑い日が続くと思いますが、草花の世界では早くも秋の気配？

クサレダマ



エゾミンソハギ



ノコギリソウ



秋の七草
オミナエシ



ナデシコ



「野の花の丘」便り (8月上旬)

生存競争？

8月になり「野の花の丘」の花も様変わりして来ました。少し夏枯れという状況でしょうか。

今多く見られるのは、盛りは過ぎましたがピンク色のヤナギラン、キクの仲間のノコギリソウ、ヒヨドリバナ、ヨツバヒヨドリ、キキョウの仲間のツリガネニンジン、秋の七草の一つのオミナエシなど、少しずつ秋の気配が漂ってきています。

一方ではカワミドリ、オトコエシ、トモエソウ、チシマアザミなどはわずかしかが姿が見られず、なくなってしまうのではないかと少々心配になります。

植物の世界でも生存競争は厳しそうです。

今多く見られる花

ヤナギランと ノコギリソウ



ヒヨドリバナ



ツリガネニンジン



少なくなった花

オトコエシ



トモエソウ



カワミドリ



「野の花の丘」 便り (8月中旬)

セイタカアワダチソウ!

8月も中旬となり、世の中の暑さとは別に、「野の花の丘」は秋の風情が漂ってきました。夏の花のクガイソウ、ヤナギラン、オカトラノオ、クサレダマなどが終わりをむかえ、今はツリガネニンジン、オミナエシ、エゾミソハギなどが盛りをむかえています。

そして厄介者のセイタカアワダチソウも黄色い花をつけ始めました。セイタカアワダチソウは北米からの帰化植物で、日本で大繁殖しました。この根にはほかの植物の発芽・生長を阻害する物質が含まれて、周囲の植物を駆逐してしまいます。日本古来の植物はみなこれにやられて生えなくなりました。

しかしながらセイタカアワダチソウ自体も自らの毒で彼ら自身まで被害を被るようになりました。一時はものすごく勢力を誇ったセイタカアワダチソウが最近では自滅を始め少なくなってきました。

植物の世界では「一人勝ち」は許してくれないようです。それでも厄介者には変わりありません。せっせと取り除くしか手立てはないようです。

よく見れば菊の花に似て可愛い
セイタカアワダチソウの花



今多く見られる花

ツリガネニンジン

エゾミソハギ

オミナエシ



「野の花の丘」便り (9月上旬)

今はもう秋

9月の声をきき随分涼しくなり、「野の花の丘」の花ももすっかり寂しくなりました。咲いている花の量が一気に少なくなったような気がします。

今目立っているのは黄色いオミナエシと、厄介者のセイタカアワダチソウでしょうか。ヤマハハコ、エゾゴマナ、ノコギリソウなどの白い花も頑張っているのですが、あまり目立たずひっそりと咲いています。

秋の花のエゾノコンギクが目立つようになりました。またこの園路の反対側の萩の花もピンク色の花を咲かせ、いろどりを添えてくれています。

目立つ黄色い花

オミナエシ



セイタカアワダチソウ



目立たない白い花

エゾゴマナ



ヤマハハコ



これから盛りになる花

エゾノコンギク



ハギ



「野の花の丘」 便り (9月中旬)

秋の七草

奈良時代の歌人山上憶良が万葉集で詠んだ「萩（ハギ）の花、尾花（オバナ）葛花（クズバナ）、撫子（ナデシコ）の花、女郎花（オミナエシ）また藤袴（フジバカマ）、朝貌（アサガオ）の花」が秋の七草の由来とされています。

ここ「野の花の丘」にも秋の七草がいくつかあります。萩の花（ハギ）、尾花（ススキ）、撫子（ナデシコ）、女郎花（オミナエシ）と藤袴の近種であるヒヨドリバナの5つです。

なお葛花（クズ）と朝顔の花（キキョウのことだと言われています）は残念ながらありませんが、「野の花の丘」にも秋の風情が漂ってきています。

春の七草のようにおかゆにして食べるのではなく、秋の七草は目で楽しむ、鑑賞する植物のようです。

萩の花（ハギ）



尾花（ススキ）



撫子（ナデシコ）



女郎花（オミナエシ）



「野の花の丘」 便り (10月上旬)

「ススキ」と「セイタカアワダチソウ」

「セイタカアワダチソウ」は北米原産で、昭和40年台以降には日本全国で大繁殖するようになりました。凄まじい繁殖力だけではなく、なんとその根には他の植物を駆逐する毒素が含まれ、日本の古来の植物たちはこれにやられてすっかり駆逐されてしまいました。

一時はあれほどの猛威をふるった「セイタカアワダチソウ」でしたが、彼ら自身も自らの毒で被害を被り自滅を始めました。「セイタカアワダチソウ」の勢いが衰え、力の空白が出来たところへ、「ススキ」が乗り込んで勢力を回復してきています。「ススキ」は他の植物より効率よく光合成をすることが出来るそうで、劣悪な環境でも耐える能力を持っています。また「ススキ」は「セイタカアワダチソウ」の毒に耐性を持つようになったらしいのです。

植物の仁義なき戦いとでも言うのでしょうか。

なお北米では、日本からやって来た凶暴な外来種「ススキ」が猛威をふるい始め、在来種の「セイタカアワダチソウ」を駆逐して問題となっているのだそうです。

植物の世界もグローバル化が進んでいるようです。

ススキ



セイタカアワダチソウ



「野の花の丘」 便り (10月中旬)

今年もそろそろ店じまい

「野の花の丘」の花もほとんどが終わり、ユウゼンギクがわずかに咲いている状態になりました。

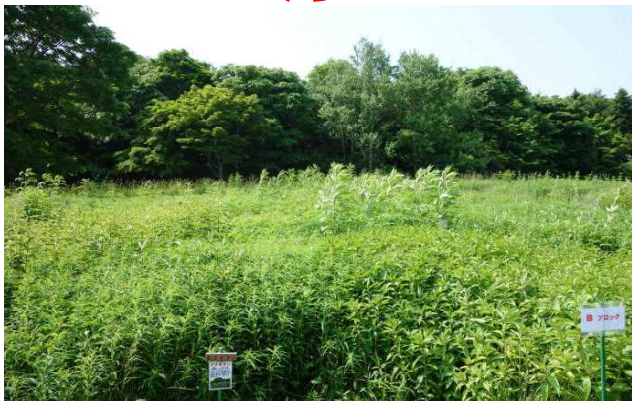
5月から今まで沢山の花が目を楽しませてくれました。

「野の花の丘」の花は地域のボランティアの皆さんの力をかりて平成22年9月に約4,000株を植栽しました。それから4年後の平成26年に生育状況を調査すると、セイタカアワダチソウがわが物顔で、はびこってしまっていました。そこで平成26年から年3回ずつの手入れをするようになり、何とか花を楽しめる状態までに回復したのではないかと考えています。

もうすぐ今年の花の季節は終わりますが、来年もまたたくさん花が咲いてくれますように願って今年の「野の花の丘」便りは終わりにしたいと思います。

今年の野の花の丘

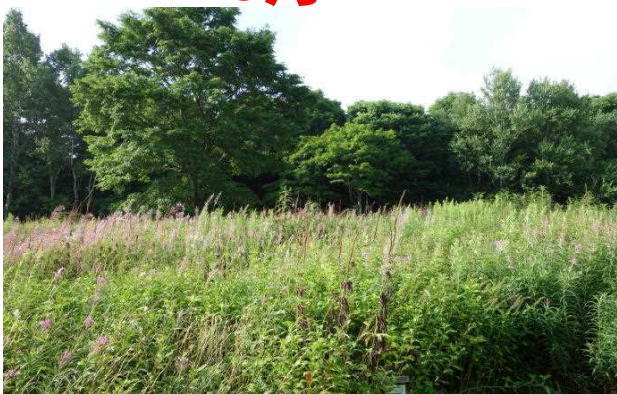
6月



7月



8月



9月

